

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	生殖細胞のエピゲノムダイナミクスとその制御
領域代表者	篠原 隆司（京都大学・大学院医学研究科・教授）
研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、生殖細胞形成におけるエピジェネティックな遺伝子制御、その破綻による病態解明を目指すもので、大きく展開されつつある領域をさらに推進しようとする提案である。基礎生物学、医学の両分野で重要な生殖細胞分化制御の一制御系としてエピジェネティック制御の解明に係る研究は必要性及び緊急性が高い。また、世界的にも注目を浴び、かつ我が国が世界をリードしている分野であり、領域として推進することで、周辺分野への波及効果も期待できる。研究組織は、実績のある研究者と先鋭的な若手研究者で構成され、計画研究間における研究を円滑に運営する方法やリソースの共有、研究成果の広報活動について十分検討されており、研究の推進が期待できる。</p> <p>一方で、次世代シーケンサーから産生される大量のデータを扱うこととなるため、バイオインフォマティクスと数理解析の専門家も加える必要がある。また、一部の計画研究代表者については、他の大型研究課題との研究内容の切り分けに留意することが必要である。</p>